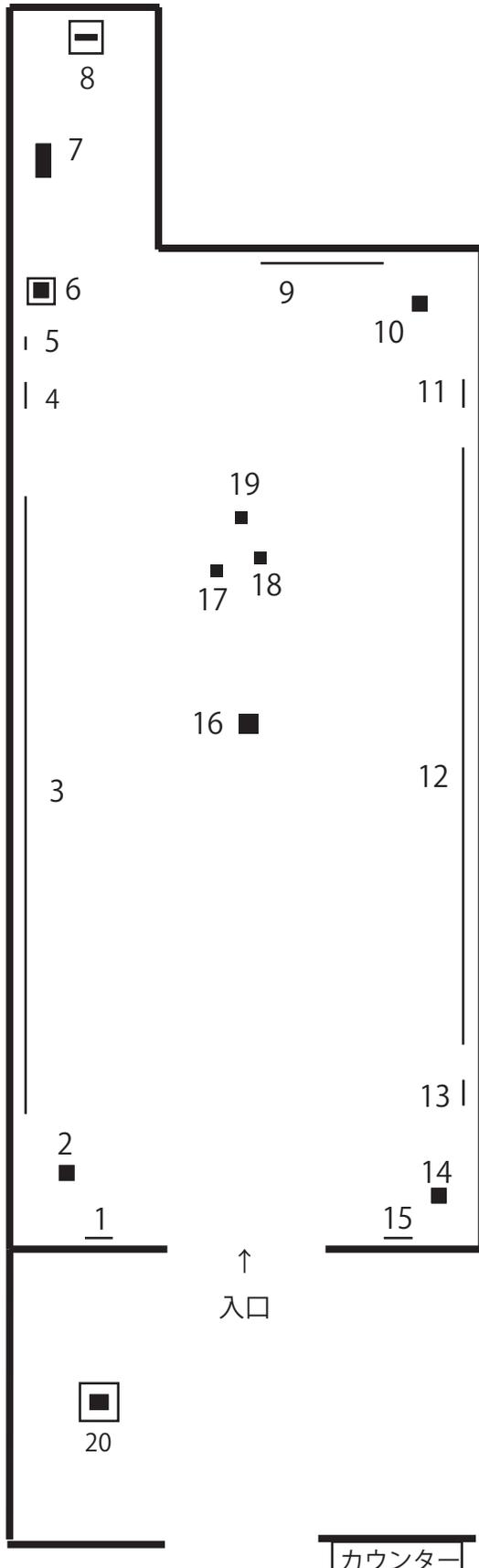


「特集展示 植松永次 一土と火」展示作品リスト

2024.7.27 - 2024.9.29 三重県立美術館 柳原義達記念館

作品番号 作品タイトル 制作年（記載のないものは不詳）の順に記載。

A 室 no.8 は Gallery 38 蔵、ほかはすべて作家蔵。B 室出品作はすべて個人蔵。



A 室

植松は、絵画や版画を学んでいた 20 代のときに土を用いた制作を始めた。土が持つ根源的なものに惹かれ、作ったものよりも、土そのままのほうが良いと感じたことがきっかけだったという。以降、「できるだけつくらないように作る」ことを試みてきた。植松は自らの制作について、日常や自然から感じたものから形ができてくるような感じと語っている。

1 乾き 2018 年頃

木枠につめた土を乾燥させ、焼成した作品。表面のひび割れは乾燥の過程で自然にあらわれた。

2 天子

3 森の青空 2024 年

4 空に遊んで

5 芽の出所

6 三重の水

7 泥舟 1996 年

シャモット（耐火粘土を高温で焼き、細かい粒状に粉碎したもの）の型に泥を流し込み、乾かすことを繰り返して成形した。黒色のグラデーションは炭化焼成によってあらわれた。

8 空を見る 1997 年

9 月追いかけて 2024 年

《森の青空》(no.3)、《満天の星》(no.12) とともに、柳原義達記念館の空間に合わせて制作されたインスタレーション。

タイトルは幼少時、夜空の月を追いかけて走った記憶にちなむ。

10 泉

11 白い月

12 満天の星 2024 年

13 赤い月

14 伊賀白花入

15 青空

16 炭化泥皿

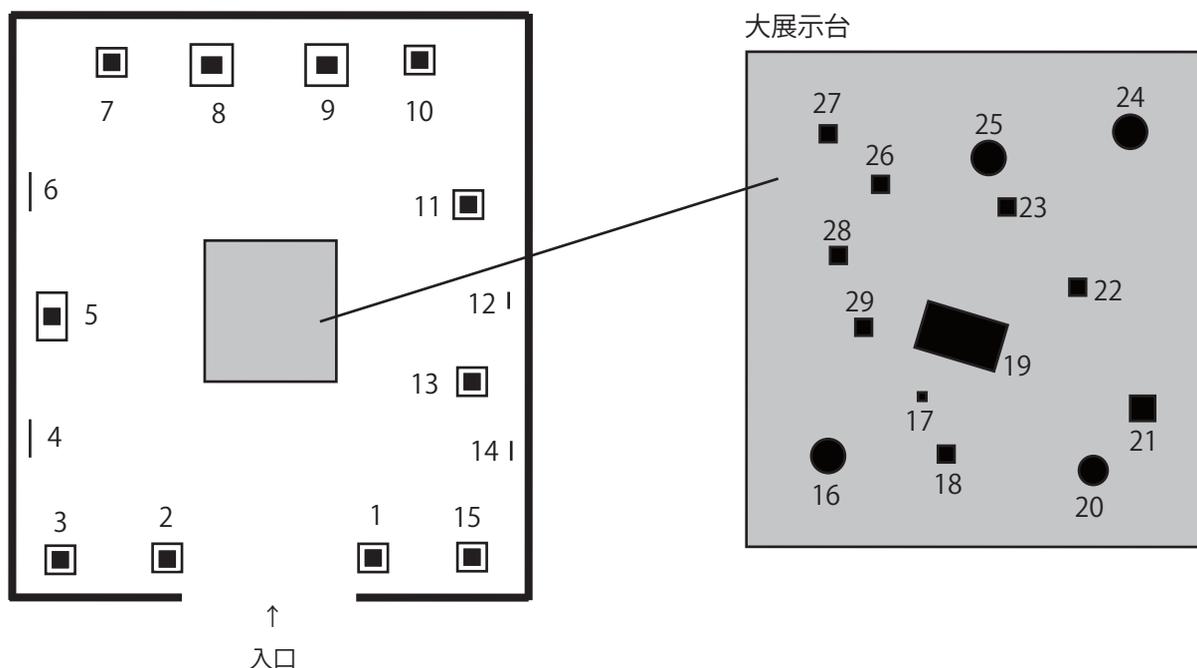
17 白の乾き

18 白の乾き

19 白の乾き

20 迎える

B室



B室の展示作品のほとんどは、かつて三重県名張市に所在した上伊倉紀美氏の私設ギャラリー「遊器ゆうき庵あん」(現在活動休止)での個展に出品された作品。「遊器庵」は、個人宅庭に建つログハウスを転用した極小の展示空間であり、1994年以降、約10年間にわたって植松の個展を行ってきた。オブジェ、器、インスタレーションなど意欲作が次々発表され、植松の制作を長年にわたって支えた。

- 1 乾杯 2004年
- 2 走る 2004年頃
- 3 流れるように浮くように
- 4 空から
- 5 気分のいい招き猫 1994年
- 6 空へ
- 7 土神のゲーム 1995年
- 8 虫の砦 1993年
- 9 生命の木 1993年
- 10 杵
- 11 野の花 1993年
- 12 心
- 13 星の下
- 14 花笛
- 15 よろこび

【大展示台】

- 16 お日さま
- 17 七輪
- 18 仏は仏にあらず 楽しい人々
- 19 大地の器 1991年
- 20 輪
- 21 記念日
- 22 らくだ香
- 23 龍の子
- 24 器 三つ足
- 25 板皿
- 26 月を背に 2004年
- 27 プレゼント
- 28 虹が出た
- 29 手のある器